



# 三重中央だより

当院の理念(Principle) ●いのちの尊さを自覚し、病む人の身になって、安心で質の高い医療を行います。

## テーマ ▶ **がんに克つ**：三重中央が目指すもの

### 地域がん診療連携拠点病院

#### 三重中央医療センターについて

久居一志地区医師会  
 会長 **上野利通**

私の診療所が津市庄田町に開院したのは平成10年のことでした。丁度、三重中央医療センター（以下、医療センター）が久居駅前から今のインターガーデンに引っ越してきたのも同じ平成10年でした。それ以来いろいろなことで公私にわたってお世話になっておりまして、普段から感謝の念を持っています。久居一志地区医師会の事業計画書を見ると、「医療センターは、救急医療、災害医療、種々の講演会や研究会の開催など当地区の中核となる病院です。本会としても引き続き連携を深め、支援していきます」と謳っています。実際に医師会と医療センターとは様々な分野で講演会や勉強会を通して連携を深めています。具体的には毎年9月に行われる医療センター主催の防災訓練、毎月開催される水曜会、肺がん読影検討会、胸部写真読影検討会、三重中央地区COPDセミナー、心電図検討会、DB（door to balloon）90、心筋梗塞ホットライン（緊急電話）、消化器疾患懇話会、三重中央糖尿病研究会、脳卒中研究会、脳卒中ホットライン（緊急電話）などがあります。そして雑誌「雲出川」などで学術欄に投稿

をしていただき医師会員の医療水準の向上に寄与してもらっております。また、医療講演会の出前サービスも開始されまして、実際に私の診療所では昨年の9月に田中淳子先生に来ていただいて動悸、浮腫についての市民健康講座を開催してもらい地域住民に大好評でした。そして、医療センターの研修医の先生方は研修の一環として私の診療所に勉強しにきてもらっています。約2週間ですが、毎日共に診療すると心安くなり紹介状のやり取りの場合など円滑に話が進みます。これら地道な協力関係はとても大切にしております。そして医療センターは普段の診療で開業医が診断に困った場合に精査加療をお願いするところとして、あるいは重症患者を引き取り管理治療をしていただく病院としてとても貴重な存在です。ベッドのことやマンパワーなど限界のあることは承知しておりますので今後もより体制を強化するようにお願いいたします。これからも、地域住民のために我々医師会も精いっぱい努力していきますので、医療センターのご協力をよろしくお願いいたします。

## 地域がん診療連携拠点病院としての取り組み

みなさん、こんにちは、三重中央医療センター外科の横井です。当センターは平成14年8月から、地域がん診療連携拠点病院に指定されています。これはがん対策基本法に基づいて、全国どこでも質の高いがん医療を提供できるように、がん医療の均てん化を目指して、厚生労働大臣が指定する医療機関です。今日は、当センターにおける地域がん診療連携拠点病院としての取り組みについて述べさせていただきます。

最近では各疾患別に治療方針の目安となる診療ガイドラインが作成されていますが、当センターではこれらガイドラインに基づいた標準的治療を行うとともに、進行がんや再発例に対しては単一の診療科だけでなく、関連する臓器別に複数の診療科の専門医の意見を取り入れ、応用治療や集学的治療を実施できる体制をとっています。すなわち、各患者様には担当医がありますが、がんの病状によっては単一の診療科あるいは一人の担当医では治療方針の決定が難しいケースも少なくなく、当センターでは昨年10月から「カンサード」というカンファレンスを開始しています。これは手術、放射線治療および化学療

法に携わる専門的な知識および技能を有する医師、画像診断、病理診断等を担当する医師、また緩和医療に携わる医師や臨床心理士、さらに、がん医療に携わる看護師、薬剤師などの専門職が診療科や職種の枠を越えて集

まり、がん患者の症状、状態および治療方針等を意見交換・共有・検討・確認することを目的とし、がん診療に関わる当センターの職員が全体で参加するカンファレンスです。また放射線治療につきましては、一昨年、新型ライナック装置が導入され、より精緻で効果的な放射線治療が可能となりました。

化学療法（いわゆる抗がん剤治療）については、新しい化学療法薬剤が次々と開発されており、新規承認薬剤をできるだけ早く採用可能とする体制をとるとともに、医師とがん化学療法認定看護師、薬剤部で連携を取り、副作用対策や不安解消に努めています。緩和ケアにつきましては、これまでの緩和ケアチームによる入院症例の回診に加え、緩和外来を設置し、外来での対応にも取り組んでいます。

以上のほか、外来にはがん診療支援センターを設置して皆様の悩みや不安に対する相談やがん診療に関する色々な情報提供も行っていますので、ご利用いただければ幸いです。



がん診療部長

横井 一



感染対策診療部長・  
呼吸器内科

井端 英憲

「手術が出来ない肺がんと聞いて、自分に未来はないと思った。しかし、抗がん剤治療で仕事もできるし、旅行にも行ける。自分にも明日があるという希望が私を支えている。」

「友人は事故で突然死したが、自分は抗がん剤治療で時間を得た。家族との思い出を作れた。自分の葬式の指示もした。やり残した事は多いが、納得できる最

期は迎えられそうだ。」これらは、進行肺がんで抗がん剤治療中の患者さんの言葉です。

肺がんの死亡者数は、本邦の悪性腫瘍の中で第一位のままです。しかし、その内容は以前とは随分と変わってきました。「がんと共に生きる期間」が急激に伸びているのです。

進行肺がんの場合、20年以上前なら肺がんと診断されて半年間を生きることは稀でしたが、10年余り

## 肺がん治療が目指すものは「明日があるという希望」と「自分が納得できる最期」

前から1年以上生きる人達が出始め、最近では数年間を生きる人も出ています。

進行肺がん患者が長生きできるようになった最大の要因は、「抗がん剤治療の進歩」です。抗がん剤治療の副作用は減り、現在は「外来抗がん剤治療」が出来る時代になりました。

私たち呼吸器内科医は、「がんを倒す」のではなく、「がんと共に生きる」治療を目指しています。自宅で家族と過ごし、職場で仕事をし、趣味もできる「人間らしい営み」の中で、抗がん剤治療が肺がん患者さんにもたらす「かけがえのない時間」は貴重です。あきらめなければ、多くの治療を選択できる時代になりました。「がん治療は、あきらめた時が終点」です。私たちは皆さんが「がんと共に長生きする」ことに貢献したいと思います。

私は、「がん薬物療法認定薬剤師」としてがん領域を担当しています。当院では、多くの患者さんが化学療法（抗がん剤）で治療を行っています。化学療法には、多種・多様な副作用があり、治療を継続する患者さんを苦しめる一つの要因となっています。副作用の中には、吐き気・嘔吐などの消化器症状、手足のしびれ、皮疹・ひび割れなどの皮膚症状、白血球減少などの骨髄抑制があります。その対策として用いる手段も医薬品となりますので、薬剤師が貢献できる分野と考えています。

入院患者さんには、お部屋まで伺い、お話を聞きながら副作用症状の観察を行い、必要な対策を医師と検討することが出来ます。しかし、外来患者さんには、外来化学療法室での「点」の関与となり中々ゆっくりとお話を伺う事が出来ません。そこで、外来化学療法室で勤務している「がん化学療法看護認定看護師」と協力し、情報を共有・交換し、出来るだけ「線」で関われるように工夫を行っています。

将来的には、薬剤師が外来へ常駐し、医師の診察

## 薬剤師が目指す抗がん剤治療

前に患者さんと面談できる機会を設けたいと考えています。面談により副作用の確認や対策案を医師へ提案できます。副作用対策において医師の負担が軽減



薬剤部 調剤主任

中村 卓巨

できれば、より疾患のコントロールに集中できると考えています。副作用症状のコントロールが薬剤師に与えられた使命と考えていますので、何かお困りの症状がありましたら相談して下さい。

## 外科医からのメッセージ

外科では、乳腺、消化管（食道、胃、大腸）、肝胆膵のがんの手術、抗癌剤加療を行っております。医療の進歩により新規抗癌剤、放射線治療、免疫療法など、様々な治療が選択肢に上がる時代になってきました。しかし、未だ、手術的切除は治療の中心です。私たちは手術を必要とする患者様に対し、安心して治療を受けていただけるように心がけております。

最近では消化器外科領域においても腹腔鏡手術が普及し、当院におきましても、腹腔鏡手術の割合は増加しております。腹腔鏡手術とは小さな穴（約1cm～5mm）をいくつか開けて、その穴から病変部を切除する治療です。私たちは患者様の安全を第一に考え、全ての患者様にお勧めはしていませんが、手術後の傷は小さく、痛みも少なく、早く退院ができるとても良い治療の選択肢です。

私自身、手術を受けた経験がありますが、いざ手術となると不安で、手術後も検査結果を聞くまで心に穴があいたように過ごしておりました。手術

を受ける事は人生の中でとても大きな事です。そうした時に、一緒に何がベストな治療選択かを一緒に考えましょう。癌と言われた方の中には、「あのとき検診に行っていたら」「家族のすすめで病院に行っていたら」などと悔やまれる方がみえます。タイムマシーンがあればいいのですがありません。大事なのは、これからどのように一番良いこと・良いことを選択していくかです。（もちろん、そうならないために早期発見のため検診を受けてください。）私たちにそのお手伝いをさせてください。

近年、疾患ごとのガイドラインと呼ばれる治療方針の指針がでており、私たちは基本的には、これに準じた治療を行っております。しかし、患者様の状態、ご希望に応じて適切な治療方法を一緒に考えていきたいと思っておりますので、ご相談事がございましたら、ご連絡ください。

重県には10施設、17名の呼吸器外科専門医が在籍しています（当院は2名）。

肺は右側で3つ、左側で2つの肺葉にわかれており、一般に肺癌の手術は、癌ができている肺葉を切除し、気管や気管支に沿ってあるリンパ節も同時に切除します。手術により受ける恩恵は大きいですが近年高齢者が増え、肺気腫などの閉塞性肺疾患を併存している方も少なくはなく、手術後の合併症は大きな問題となります。肺を切除することで肺機能は低下するため、術前の生活の質（QOL=Quality Of Life）を少しでも落とさないように手術前の評価を十分に行ない、肺機能温存のために適応となる場合は区域切除（肺葉の中の一部を切除する）や気管支形成術も行っています。正確で安全である手術を第一とし、最近では開胸術（約10cmほどの開胸創で行う）中心に行うことを心がけ、さらに呼吸器内科医や放射線医、病理医と連携し、幅広い治療を行うことを目指しています



外科

信岡 祐

## 呼吸器外科医が目指すもの ～正確な診断と治療をめざして～



呼吸器外科医長

安達 勝利

呼吸器外科は結核を治療する外科として発達してきましたが、化学療法の発展とともに結核に対する手術は次第に減少しました。現在最もたくさん行っている手術は、肺癌に対する手術です。

呼吸器外科医は少なく専門医は全国で約1300人、三

食道、胃、大腸癌は、癌の進行の程度によって臨床病期で分類されます。臓器によって多少異なりますが、4段階に分かれており、ほとんどの患者さんの治療方針は臨床病期によって決まります。ごく早期の癌であれば内視鏡治療を行い、進行癌であっても他臓器に転移がなければ手術や化学放射線療法を行い、もし肝臓や肺、骨、腹膜といった他臓器に転移のみられる癌であれば、化学療法を行います。癌が発生してくるとき少しでも早い段階で見つけれないか、少しでも体への負担の少ない治療はないか、といった目的をもって各医師が診療に望んでおります。できるだけ協力し合うことにより、無駄のない、患者さんに負担のかからない検査の組み立てや、治療の実施をめざし、また、治療成績の向上と患者さんの“療養生活の質”（QOL）の改善に取り組んでいます。

診断の面においては、診断精度を上げるために、Narrow band imaging (NBI) システム、色素内視鏡、拡大内視鏡検査、超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診（EUS-FNA）などを用いています。主に早期癌の発見や治療前に正確な癌の範囲を決めるときに活用さ

## 消化器内科医が目指すもの

れています。

食道、胃、大腸の早期癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）の件数は増加しています。従来外科手術を受けて臓器

を摘出されていた患者さんに対してもESDの適応が拡大されつつあるため、内科的治療だけで完全に癌を切除できるようになったのです。

手術による根治が困難な進行癌に対しては、抗癌剤による化学療法、消化管狭窄（食道、胃、十二指腸、大腸）に対して、ステント挿入なども行っています。



内視鏡センター診療部長・  
消化器内科

渡邊 典子



肝臓・消化器内科医長

竹内 圭介

肝臓を原発とする肝がんには、肝細胞がん、胆管細胞がんなどありますが、今回は日本で約90%を占める肝細胞がんについて話を進めます。

肝細胞がんの患者さんの多くは肝炎ウイルスの持続感染が原因であり、C型肝炎ウイルス（HCV）が約8割、B型肝炎ウイルス（HBV）が約1割を占めています。

肝細胞癌の治療には手術以外に、肝動脈塞栓術、経皮的ラジオ波焼灼療法、エタノール注入療法などの治療があります。これらの治療を選ぶときに、がんの数と大きさ、転移の有無などのがんの進行度に加え、肝機能を考慮することが重要です。これは慢性肝疾患（慢性肝炎、肝硬変）の状態を評価し、肝

## 肝臓専門医からのメッセージ

臓に負担をかけない治療を選ぶ必要があるためです。治療したあとでも、患者さんの多くは慢性肝疾患のために肝細胞がんができやすくなっており、定期的に検査を受ける必要があります。

慢性肝疾患の治療も重要です。近年、肝炎ウイルス治療に劇的な変化が起こっており、HCVは内服治療により90%以上の患者さんで排除が可能となりました。HBVの場合は完全に排除することはできませんが、核酸アナログ製剤で肝臓の状態をコントロールすることが可能です。このように治療薬の進歩によって、7～8割の肝臓がんを予防できる時代になってきました。

肝がんを予防するために、必ず一度は肝炎ウイルス検査を受けましょう。陽性と判定された場合には、速やかに専門医を受診して下さい。

## 当院の泌尿器科医が目指すがん医療

泌尿器科領域の癌で一般的なのが①腎がん、②膀胱がん、③前立腺がんです。

この中で当院では腎がんに対して三重大学の応援も得ながら三重大学病院とほぼ同じ手術治療を行っています。10年ほど前まではお腹を大きく切って腎臓を摘出する手術方法が一般的でした。術後の痛みもあり、創部感染や腸閉塞などの術後合併症もありました。その後お腹に数カ所の穴を開け、ここから内視鏡や鉗子などを入れ腎臓を摘出する腹腔鏡下（鏡視下）腎摘出術が開発され、一気に世界中に広がりました。この方法では患者さんの術後の痛みが少なくなり、合併症もほとんどなく回復も早くなりました。そして最近では癌が小さく腎臓の中心部（血管や尿管が集まっている部分）ではなく近縁部にできている場合には癌とその周囲の正常な組織を含めて切除する腎部分切除術が行われるようになりました。これにより腎機能がある程度保たれ、手術後も

より健康な身体でいられるようになりました。当科でもかなり大きな腎がんは開腹手術になりますが、今年から腹腔鏡下腎部分切除術をさせていただいています。今まで5人の方に手術をさせていただき、術中・術後の合併症もなく元気に退院していただきました。今後さらに画期的な治療法が開発されるまでは腹腔鏡下腎摘出術や腹腔鏡下腎部分切除術が一般的治療になります。腎がんはエコーやCTで偶然見つかることが多く、膀胱がんは尿潜血陽性、前立腺がんは血液検査の腫瘍マーカー（PSA）の増加で見つかることが多く、ほとんどが早期癌です。検診や人間ドックを是非受けて下さい。



外来診療部長・泌尿器科

加藤 雅史

## 婦人科医が望むもの



婦人科医長

吉村 公一

婦人科の悪性腫瘍は、子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんなどが代表的なものです。乳がんもありますが、日本では一般的には、乳がんは

外科が扱っています。2010年の統計では、乳がんは6800人、子宮頸がんは11000人、子宮体がんも11000人、卵巣がんは9900人ほど発生しています。これらの婦人科がんの予防は可能でしょうか？

子宮頸がんに対しては、ワクチンが開発されて、多くの国で接種されていますが、日本では、副反応の問題で頓挫した状態になっています。子宮頸がんの予防にはワクチン接種と同時に癌検診（細胞検査）も重要です。子宮体がんや卵巣がんについては、ピル（避妊用ホルモン剤）の内服ががんの発生を減少させると言われています。また、卵巣がんについてはある種のがん遺伝子が関連していることがわかっており、予防的卵巣卵管摘出術が行われるようになって来ています。このような予防策により婦人科癌の罹患率は徐々に減少していくでしょうが、将来的には分子生物学などの発達によりがん細胞の生物学的性質が根本的に解明されて、がんの予防と治療が可能になることを期待しています。



がん性疼痛看護認定看護師

中村 めぐみ



3人に1人から2人に1人ががんを患う時代になりつつあります。平成26年度では、年間（延べ人数）入院で1,570名、外来で26,993名のがん患者さまが三重中央医療センターで治療を受けられました。看護

師は、がん患者さまが初めてがんを知る時、治療を選択する時、治療を受ける時、がんの症状や副作用・合併症などの辛い症状で療養が必要な時、気持ちがつらい時・・・等、様々な場面で関わらせて頂きます。

三重中央医療センターでは、がん看護において専門的な看護を提供する知識と技術を持った看護師がいます。化学療法（抗がん剤治療）に関する知識が豊富で、安心して安全に治療を受けて頂くことを支援する“がん化学療法看護認定看護師”が3名、痛みをはじめとするがんの辛い症状を和らげる方策の

## 「『かゆいところに手が届く』 がん看護を目指して！」

提供、がんによって気持ちが参ってしまう心の痛みの看護を専門とする“がん性疼痛看護認定看護師”1名の計4名です。さらに、院内で2年間のがん看護研修を受けた看護師（オンコロジーナースと言います）が昨年9名誕生しました。この13名の名札には、がん看護の専門家としての認定シールが貼られています。この認定シールを付けている看護師を見つけられた時には、是非ともお声掛けください。今年もがん看護の専門家の育成に取り組んでいます。

最後に私たち看護師は、がんを患いながらも、その人が出来る限り普段の生活を送れるように症状を和らげる看護を提供すること、患者さまやご家族ができることを一緒に見つけること、そして、つらい気持ちに気づき、寄り添うことを大事にしたいと思っています。がんを患う患者さまが外来→入院→外来を安心して治療を受け、より良い生活を送ってもらうために「かゆいところに手が届く」がん看護を目指して、日々精進しています。

がん化学療法とは、抗がん剤やホルモン剤などの薬を用いてがんに対する治療を行うことを指します。がん化学療法看護認定看護師は、がん化学療法が治療の選択肢となった時と、がん化学療法の治療期、その後の経過観察の時期の看護を専門としています。私は現在、外来で抗がん剤治療を行う外来化学療法室で勤務をしており、安全に抗がん剤を投与できるよう日々努めています。

近年、新しい抗がん剤が次々に登場し、それに伴い副作用も多岐にわたるようになりました。抗がん剤治療の場は入院治療から外来へ移行し、通院で抗がん剤治療を受けられている方が多くいます。副作用の予防・改善には、吐き気止めなどの副作用対策のお薬に加え、患者様ご自身に行っていただく「セルフケア」がとても大切です。ご自宅での生活の様子を伺いながら、患者様一人一人に合わせた副作用対策を患者様と共に考え、治療を継続できるよう取り組んでいます。がん治療を受けながら、仕事や家事、趣味などの楽しみを続けることができ、な

## 「がん治療を受ける あなたを応援します」

るべく従来通りの日常生活を送ることができるようサポートさせていただくことが私の役割であると考えています。また、医師、看護師だけでなく、薬剤部、がん相談室、栄養科など他部署との橋渡し



がん化学療法看護認定看護師

宮崎 紘子

役となり、チーム医療で患者様を支援します。

平日は外来で勤務しています。明るく元気なことが私の取り柄です。抗がん剤治療だけでなく、がんの治療中でお悩みの方はお気軽に声をおかけ下さい。

## 緩和ケアについて

がん治療中の患者さんへ。あなたは不安や苦痛無くがんの治療が行えておられるでしょうか？痛みやその他の身体の不快感、身体以外の苦痛を抱えそれを我慢し、一人で悩みながら治療を続けておられないでしょうか？がんに対する治療と共に大切な治療として緩和ケアがあることをご存じでしょうか？

緩和ケアはがんに限らず生命を脅かす重い病気を抱える患者さんやそのご家族の体や心などの様々な不快感を和らげ、より豊かな人生を送ることができるように支えていく治療（ケア）のことです。がんと診断されたその時から、それまでの安穏な生活の時には全くなかった様々な不快感が出現します。緩和ケアは様々な苦痛、悩みが出現したその時点から提供されるものであり、終末期のみの治療では決してありません。がん治療と共に車の両輪の如く展開されるとても大切で必要な治療（ケア）です。



外科医長

谷川 寛自

担当医から示される治療を心配無く受けることができるための支援として、当院には『緩和ケア外来』があります（三重中央だより第65号記事参照）。がんの病状理解を深め治療における意思決定、生活支援などを治療医と共に考え支えます。入院中の患者さんは身体や心の不快感のこと、生活や医療費、仕事面のこと、食事のこと、薬の副作用のことなど様々な不快感や痛みが続くときにはぜひ『緩和ケアチーム』にご相談ください。当院では、医師、

看護師、薬剤師、栄養士、心理療法士、医療ソーシャルワーカーなどで構成された『緩和ケアチーム』があります。

がん患者さんの治療を行うに際しては様々な視点から多面的に苦痛を捉え支えていく必要があります。がん治療に対するご自身の気持ちや考え、要望、大切にしたいこと、悩みなどお聞かせください。そして共にがんに立ち向かわせてください。私たちは共に戦いたい、支援したいと心から願っています。

## 「がん相談支援センターがあなたを支えます！」

がんを抱えながら一人で悩む必要はありません。三重中央医療センターは、患者さんが安心してがん治療を受けられるよう精一杯支えます。

まず、当院にはがん相談支援センターがあります。がん相談支援センターでは、診断や治療の判断はできませんが、がんに関するどんな相談にもお答えします。症状・副作用・医師の説明に関すること等には看護師が、心の悩み・不安等には臨床心理士が、医療費・社会福祉制度には医療ソーシャルワーカーというように、相談内容に応じて各専門職が対応いたします。



医療ソーシャルワーカー

金森 真紀子

予約優先、電話も可能、相談費用は無料です。当院通院中であっても、がんと診断されていない方でも相談できます。月曜日から金曜日の9時から17時まで、場所は①入院受付左隣の地域連携総合相談支援センター内にあります。どうぞお気軽にご相談下さい。

他にも、がん相談支援センターでは患者さん、ご家族同士の集う場として患者サロン・クローバーを運営しております。がんに関する書籍やパンフレット、がん情報を調べるためのインターネット検索が出来るパソコンがあります。利用は予約制です。患者交流会、アロマハンドトリートメント、気功等のイベントも開催しております。こちらは参加申し込み不要です。参加された方からは「ここに来ると元気をもらいます。」「他の患者さんの話が参考になりました。」「との声を頂いております。同じ悩みを抱えているからこそ分かり合えることがあると思います。是非仲間を見つけませんか？イベントの詳細、日時等は当院ホームページをご覧ください。がん相談支援センターまでお問い合わせ下さい。皆様のお越しをお待ちしております。

# がん医療に関する市民公開講座

# 男のがんと女のがん

## 前立腺がんとうちがんと

**日時** 2015年9月26日(土)  
13:30~16:30 (13:00開場、受付開始)

**会場** アスト津4階アストホール  
〒514-0009 津市羽所町700番地  
TEL 059-222-2525

### Program

- **開会の挨拶** .....13:30  
三重中央医療センター 院長 **森本 保**
- **三重中央医療センターの活動紹介** .....13:40  
「**キャンサーボードってなに?**」  
三重中央医療センター がん診療部長 **横井 一**
- **講演 1** .....13:50  
「**前立腺がんについて**」  
座長・三重中央医療センター  
肝臓・消化器内科医長 **竹内 圭介**  
講師・三重中央医療センター  
外来診療部長・泌尿器科 **加藤 雅史**  
**休憩 14:50**
- **講演 2** .....15:10  
「**子宮がんについて知ってほしいこと**」  
座長・三重中央医療センター 外科医長 **谷川 寛自**  
講師・三重中央医療センター 婦人科医長 **吉村 公一**
- **閉会の挨拶** .....16:10  
三重中央医療センター統括診療部長 **霜坂 辰一**

**参加  
申し込み不要  
先着  
250名**

**参加費無料**



■公共交通機関：津駅から徒歩1分  
■お車：伊勢自動車道津ICから約10分  
※駐車料金はご利用者様のご負担となります。

前立腺がん、子宮がんに関する質問がございましたらファックスかメールでお寄せ下さい。  
可能な限り講演時に回答いたします。

FAX:059-259-0771 ● E-mail:sodanns@miechuo-m.hosp.go.jp

## 赴任された先生方



● 中尾真大 ●

初めまして、産婦人科 中尾真大と申します。

平成24年に三重大学を卒業後、三重大学附属病院での初期研修を経て、三重大学産婦人科に入局いたしました。1年間大学病院での修練を経て、今年3月から赴任いたしました。実務では早速新しいことの連続で、上司の指導に毎日目を丸くしながら診療させていただいております。

趣味は、自転車とゴルフです。こちらも最近始めたばかりですので、産婦人科学とともにこの2年間で頑張っていきたいと思います。

生まれ育った三重県津市で、そして祖父が大変お世話になったこの施設で働けることを嬉しく思います。また、幸運にも今年第1回三重メディカルラリーもここで開催されるとお聞きし、ますます楽しみな1年であります。

平成27年4月1日より三重中央医療センター整形外科に赴任させていただきました横山弘和と申します。出身は神奈川県横浜市です。神奈川県立光陵高校を卒業後、平成18年に三重大学を卒業しました。鈴鹿中央総合病院で2年間研修を受けた後三重大学整形外科に入局し志摩病院、鈴鹿中央総合病院、亀山市立医療センターにて勤務し整形外科領域全般の診療を行ってまいりました。赴任して間もないため不慣れな点もあり皆様にはご迷惑をおかけすることと思っておりますが、当院と地域の医療に少しでも貢献できますように頑張っていきたいと思っておりますので、皆様ご指導ご鞭撻のほど、どうかよろしく願いいたします。



● 横山弘和 ●



● 倉田一成 ●

平成27年4月1日より三重中央医療センター消化器内科に赴任させて頂きました倉田一成と申します。出身は津市阿漕町です。出身校は高校が鈴鹿高校で、大学が川崎医科大学です。大学卒業後三重大学医学部附属病院で2年間の研修を終えまして、本年から3年目の新米消化器内科医となりました。今までほとんど大学病院でしか勤務したことがなく、今は環境に慣れることでいっぱいになっています。またほんの数カ月前まで研修医という立場でしたので、不安もいっぱいです。本当に病院のルールが違ったり、新しいことに慣れていなくて病院職員の方々にたくさんご迷惑をおかけすると思っておりますが、精一杯努力させていただきますので、ご指導およびご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

## 植田 好香 さん

はじめまして。本年度から研修医1年目として勉強させていただいております、植田好香です。地元は三重県の亀山市で、出身大学は岐阜大学です。趣味はゴルフ(歴7年目)とピアノ(歴19年目)です。働き始めてから、よく年齢をきかれるのですが、私は1991年未年うまれの24歳です。これからの研修医として過ごす2年間、私の不勉強がゆえに院内のさまざまなスタッフの方々にご迷惑をおかけすると思いますが、皆様ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひします。

# 研修医



## 阿曾 広昂 さん

私は阿曾広昂と申します。年齢は25歳です。出身大学は藤田保健衛生大学で、大学時代は野球部に所属していました。趣味はおいしい食べ物を求めてドライブに行くことです。生まれも育ちも三重県で、大学は愛知県にあるので6年ぶりに三重県に帰ってきました。医師としてはまだまだ未熟ですが、三重県の医療に少しでも貢献したいと思いますので、ご指導のほどよろしくお願ひいたします。

## 輝くメディカルスタッフたち

医師、看護師以外でも、多くの専門性を持ったスタッフが当院院内で活動しています。その人と仕事にスポットを当てて紹介します。

治験管理室 三木 陽介



みなさま、「治験」ってご存知でしょうか？  
治験とは、薬の候補(治験薬)について、人での効き目(有効性)や副作用(安全性)を調べ、薬として国から承認を受けるために行う臨床試験のことをいいます。

治験は人を対象にしますので、国が定めたGCP(医薬品の臨床試験の実施に関する基準)という厳しいルールに従って実施されています。

治験は以下の3段階に沿って実施されます。

第Ⅰ相試験…少数の健康な成人の方にご協力いただき、治験薬の安全性を確認します。

第Ⅱ相試験…少数の患者様にご協力いただき、治験薬の有効性と安全性を確認します。

第Ⅲ相試験…多くの患者様にご協力いただき、既存の薬との比較あるいは長期使用における安全性などの確認をします。

以上の3段階の試験が終了し

たのち、これらのデータをまとめ、製薬企業が国に薬として承認申請します。この申請を受け、国が審査を行い、承認することではじめて薬となり患者様に使用できるようになります。

当院は、治験を円滑に進められるよう治験管理室を設置しており、治験をサポートする専任のスタッフとして治験・臨床研究コーディネーター(CRC)が常駐しています。

CRCは、治験の候補となった方(=患者様)とそのご家族の方々が、安心と納得が得られた上で治験に参加出来るようお手伝ひいたします。また、CRCは、治験に参加していただいている患者様へ継続的に対応し、治験期間中の疑問や不安などに対する相談窓口なども承っています。どんな小さなことでもかまいませんので、いつでもお声かけ下さい。

# 青春グラフィティ

## 疾走篇



入院係長 兵後 吉郎



三重中央医療センターで勤務して早1年超を経過するも、まだまだ不慣れな毎日を送っております。ここ十数年は名古屋の方で生活していましたが、生まれも育ちも三重県で、実家は「紀北町（平成17年10月に紀伊長島町と海山町が合併）」にあります。鉄道は電車ではなく蒸気機関車で汽車と呼んでおり、その汽車は1～2時間に1本程度しか走っていないようなとても長閑な町です。昔は都会に憧れがあり、名古屋のテレビ塔がきらびやかに映るたびに地元とのギャップを感じ嫉妬していた時期がありましたが、今では海や山の自然豊かな故郷は癒しのスポットとなっています。

昔通っていた中学校のすぐそばに1周5kmの湖があり、マラソン大会のコースです。帰省するとそこにランニングに出かけます。そこに出かけると中学3年時のマラソン大会を思い出します。

陸上部で中長距離をやっていたのでマラソン大会にはちょっと力が入り上位を狙っていました。2年生の後輩は県大会等で常に上位に入賞していたので、とてもかなわない相手でした。その次にはなりたいと思いスタートしました。その後輩はスタートと同時に1人飛び出し、予定どおりついていけず、2番手グループで走り始めました。折り返し地点手前では2番手グループには自分と1年生の後輩の2人しかいませんでした。

折り返し地点では証跡を残すため、先生が持っているマジックを手に付けて折り返すわけですが、その時です、私の後ろを走っていた1年生の後輩が手にマジックをうまく付けられず、付けに戻らなければならず、タイムロスをしました。卑怯と思いつつも好機と思い、ペースを上げて振り切ろうとしましたが、しばらくして追いついてきました。その後は淡々と走りながらも、ラスト500mのところには橋があるので、そこでスパートを掛けて振り切ろうと考えてました。最後のスピード勝負に持ち込めば、年上の私はまず負けないだろうとは思いつつも、その展開はさすがにかっこ悪いとも思い、その橋で仕掛けました。仕掛けたものの後半になると苦しく、何度も後ろを振り返りながらゴールし、何とか2番手を守り切りました。その何とかして勝利した1年生の後輩は、のちに全国インターハイに出場、箱根駅伝に3度出場し、関東インカレでも優勝し、その後も全日本実業団対抗駅伝にも出場、現在に至っても活躍を続けています。

スパートを掛けて振り切った直後の地点には、母がカメラを構えていました。反抗期だった私は写真撮った母に強く当たりましたが、写真嫌いだった私のその頃の写真はほとんどないため、その時の1枚がとても貴重で、今でも実家の部屋に飾ってあります。

私は事務職という立場で勤務しているため患者さんと関わる機会が少ないですが、事務部門の業務を通じて患者さんに貢献したいと思っておりますので、今後どうぞよろしくお願い致します。

シリーズ  
医療用語の  
基礎知識  
10

病院職員が何気なく使用している用語で、普通にはあまり馴染みがない医療用語を分かりやすく解説します。

レセプト (その2)

5月号では(その1)ということで、レセプト(以下レセと言います)とは、請求明細書であり、患者ごとに作成し、1ヶ月分をとりまとめて診療月の翌月10日までに審査機関に提出、審査を経て病院へ診療費が振り込まれる、ということを説明しました。では、審査とはどのようなものなのでしょうか、少し掘り下げてみましょう。

審査機関とは「社会保険診療報酬支払基金」と「国民健康保険団体連合会」です。そこではレセの内容を見て、もっと詳しい説明を求める際は「返戻(へんれい)」として病院へレセを差し戻し、適切でないと判断した際は「審査減」としてその部分の診療費を減点する作業が行われます。審査を通過したレセは保険者(保険証の発行元)へ移り、そこでも審査が行われるのですが、ここでの審査結果は前者と区別して、差し戻しは「過誤返戻」、減点は「過誤減」と呼ばれます。こうして2つの審査に合格したものが、正式な診療費の決定額となります。差し戻されたレセは、翌月10日に再提出して審査をやり直すこととなります。

では審査減とはどういうことなのでしょうか。例えば薬にはそれぞれ使用量、使用方法、適用病名が決められていますが、分かりやすいように薬を瞬間接着剤Aに置き換えてみましょう。Aの説明書には「用途 プラスチック、使用方法 1cm<sup>2</sup>に1滴」と書いてあります。

瞬間的にくっつける必要があったためビニール製品に使用 → 適応でない

1.5cm<sup>2</sup>くらいありそう、はずれると困るので2滴使用 → 過剰

という理由で査定されます。必要があって使用し、接着する目的は達し、問題は起こっていないのですが、あくまでも説明書の使用方法と異なるため査定です。「症状詳記」と呼ばれる使用理由書を添付してレセを提出していますが、それでも審査に通るかどうかは審査機関の判断次第です。

減点というと一般的には過剰な診療をしているようなイメージですが、医学的に必要性のある診療行為を行っても、減点されることがあることをどうかご理解願います。



No.10  
(医事 伊藤啓之)

多数  
来場!

## 「ナイチンゲールフェア」報告

5月9日(土) 11:00~15:30  
イオン津南 サンバレーホールをお借りしてナイチンゲールフェアを行いました。今年には580名の来場をいただきました。白衣を着ての写真撮影やお菓子を使ったお薬擬似体験には、今年もたくさんの方にお越しいただきました。食育をご存知ですか?食事の大切さを勉強しました。来年もご期待ください



## 出前! 市民公開講座のお知らせ

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

7月15日(水) イオン津南ショッピングセンター サンバレー1F サンバレーホール

・手や足がしびれています。手術しないとだめですか?

講演: 整形外科 浅沼 由美子

8月18日(火) イオン津南ショッピングセンター サンバレー1F サンバレーホール

・放射線の基礎知識, 聴いてガッテン! CT検査...基礎から診断まで

講演: 放射線技師 安江 森祐, 佐藤 善彦

# ●●● 三重中央医療センター連携医療機関紹介 ●●●●●●●

## 高茶屋クリニック

ホームページアドレス：<http://www.sensin.or.jp>



当クリニックは、平成14年に地域総合ケアセンターシルバーケア豊壽園に併設されました。診療対象者は、同一敷地内に立地する複数の老人介護施設などの福祉施設利用者、保育園児、職員のみならず、地域住民にも広く開放しております。

診療科は内科・外科、整形外科、リハビリテーション科など広く受け入れておまして、一般の住民健診、がん検診、予防接種なども手掛けております。

現在は三名の医師が、一般の内科・外科疾患以外に、がん全般の相談、大腸肛門疾患や排便障害などの相談、リハビリ相談など、それぞれの専門性を活かしながら日常の診療に当たっております。さらに、近隣病院とも密接な連携を取りながら、受診された患者さんが安

心して医療を受けることができるよう、また、一般診療のみならず健康増進や疾病予防などにも役立つ情報を提供できるよう努めております。

一方、鍼灸・マッサージ治療施設も併設しており、さらに、昨年からは訪問看護ステーションも開設することにより、地域の皆様からも信頼される診療を幅広く展開していくため、スタッフ一同は常に精進しております。

なお、当クリニックの施設内はバリアーフリー化しており、天然木材を使用して自然光を豊富に取り入れ、また、壁や床にはセラミック炭を用いてマイナスイオン効果や湿度調整など、身体に優しい癒しの設計となっております。

医 師：田島 和雄（外科、内科、がん相談） 松本 好市 （外科、消化器・肛門、排便異常、健診事後相談） 坂本 己津恵（内科、リハビリテーション科）
住 所：〒514-0816 津市高茶屋小森上野町字野田733
電 話：059-235-5300

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9：00～12：00	○	○	○	○	○	△	△
14：00～18：00	○	○	○	○	○	△	△

受付：午前は11：30、午後は17：45まで 休診日：土・日曜日、祝日

## つおき高橋クリニック



当院は津のヨットハーバーの近くで開院してから9年目になります。生活習慣病や胃腸科・肛門科を中心に診療を行っています。開院時より漢方薬治療も取り入れて、できるだけ患者様の希望に沿った治療を心が

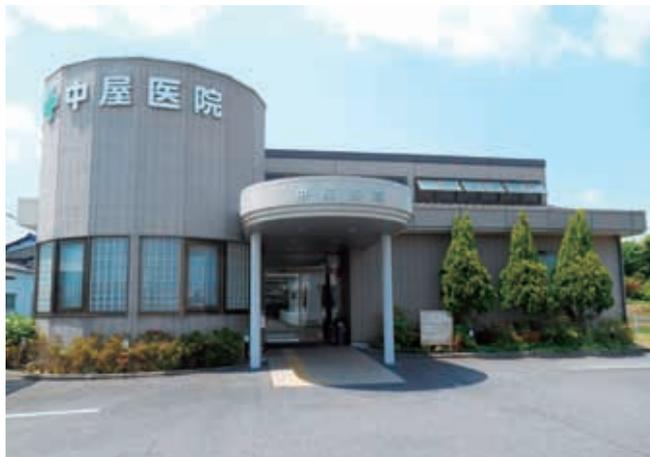
け、気楽に相談できる「かかりつけ医」として少しでも地域の方々のお役に立つようにと考えています。また、来院が困難な方に対しては往診・訪問診療など在宅診療にも取り組んでおります。三重中央医療センターの皆様には困難な症例を診て頂き大変お世話になっております。今後ともよろしく願いいたします

院 長：高橋 宏明
住 所：津市三重町津興433-87
電 話：059-246-7771
診療科目：内科・外科・胃腸科・肛門科
休 診 日：日曜、祝日、木曜午後

診療時間	月	火	水	木	金	土
9：00～12：00	○	○	○	○	○	○
15：00～18：30	○	○	○	△	○	△

△ 14：00～17：00

# 中 屋 医 院



当院は平成13年10月に津工業高校近くの津市半田に開業しました。

今年で15年目になります。

地域の皆様に信頼される医院作りを目指し、親切、丁寧をモットーに職員一同、一致団結して『人に優しい医療』を心がけています。

一般内科、胃腸科、循環器科、呼吸器科を標榜して

いますが健診や予防接種も行っています。

院長は約20年間 永井病院で内科医として勤務し、総合内科医的な仕事に従事しましたのでその経験が地域開業医としても非常に役立っていると感じています。

平成17年より老健施設への往診も行っておりますが、患者様が高齢の為、急変する事もあり三重中央医療センターの先生方には何度も助けていただきました。今後も引き続き宜しくお願いいたします。

院 長：中屋 龍助  
住 所：津市半田平木202-5  
電 話：059-229-7227  
診療科目：内科・胃腸科・循環器科・呼吸器科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00 ~ 12:00	○	○	○	△	○	○	△
15:00 ~ 18:30	○	○	○	△	○	△	△

△は 14:00 ~ 17:00

## 「クローバー友の会」 会員募集

「クローバー友の会」は地域の皆様と病院が、様々な病気・医療の学習を通して理解を深め合う会として発足しました。賛同いただける方はぜひ会員登録をお願いいたします。登録は無料です。会員には当院から健康に関する様々な情報をお届けします。受付でお声かけください。登録と同時に会員証をお渡しいたします。

たくさん勉強していただいた方には素敵なプレゼントがあります。

記入いただいた個人情報は本会の業務以外には使用せず、安全かつ適切に管理いたします。

**三重中央医療センター 地域医療連携室**

独立行政法人  
三重中央医療センター  
クローバー友の会事務局

〒514-1101 三重県津市久居明神町 2158-5  
TEL. 059-259-1211 (代)  
地域医療連携室

独立行政法人  
三重中央医療センター クローバー友の会

会員にご登録いただきありがとうございます。  
講演会に参加いただくごとに1スタンプ発行いたします。  
(スタンプ数による特典は別途ご案内いたします。特典は変わることがあります。)

■会員名 \_\_\_\_\_  
住所 \_\_\_\_\_  
氏名 \_\_\_\_\_  
電話 \_\_\_\_\_

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20

### 編 集 後 記

朝顔が咲き始め、海や山の恋しい季節となりました。

三重中央だより7月号では5大疾病の1つである「がん」を特集し、地域がん診療拠点病院として各診療科医師をはじめ「がん」に関連するスタッフの記事を掲載しました。

今年度から地域医療連携推進メンバーの一員となり、これから学ぶことばかりですが、地域の皆様の健康に役立つ情報を提供していければと思いますので、よろしくお祈りいたします。

(南)

発行所

三重中央医療センター

院長 森 本 保

三重県津市久居明神町2158番地5  
TEL. 059-259-1211  
<http://www.hosp.go.jp/nmch>



# 外来診療担当表

平成27年7月1日現在

診療科名等		月	火	水	木	金	
初診内科 (初診・予約外)	1診	井端 英憲【呼】	大本 恭裕【呼】	北村 政美【循】	田中 剛史【糖】	川崎 敦【循】	
	2診	竹内 圭介【消】	中久木 哲也【循】	岡野 智仁【呼】	田中 淳子【循】	後藤 浩之【糖】	
	3診	新谷 卓也【循】	子日 克宣【消】	十時 利明【消】	渡邊 典子【消】	亀井 昭【消】	
	4診	中谷 仁【循】	奥田 昌也【糖】	田口 由紀子【消】	(休診)	内藤 雅大【呼】	
	10診		吉川 恭子【消】				
再診内科 (再診予約のみ)	呼吸器科	5診			井端 英憲(午後再診)		
	循環器科	5診	田中 淳子	川崎 敦	新谷 卓也	中久木 哲也(午前再診)	
	呼吸器科	6診		井端 英憲	井端 英憲	大本 恭裕	
	(整形1診)			藤本 源			
	消化器科	7診	子日 克宣	亀井 昭	渡邊 典子	十時 利明	竹内 圭介
	内科	8診	中久木 哲也【循】	新谷 卓也【循】	後藤 浩之【糖】	田口 由紀子【消】	中谷 仁【循】
		9診	後藤 浩之【糖】	田中 剛史【糖】	田中 剛史【糖】	田中 崇【糖】	田中 剛史【糖】
10診				内藤 雅大【呼】	奥田 昌也【糖】	岡野 智仁【呼】	
ペースメーカー チェック		ペースメーカーチェック (毎月第1月曜日午後)			ペースメーカーチェック (毎月第1木曜日午前)		
神経内科	1診	北川 長生	梶川 博之(再診予約のみ)	北川 長生	梶川 博之	北川 長生	
	2診	吉丸 公子	北川 長生(再診予約のみ)	梶川 博之	北川 長生	吉丸 公子	
小児科 (NICUフォロー発達 外来は予約のみ)	午前	1診	井戸 正流		井戸 正流	田中 滋己	
		2診	*NICUフォロー	*NICUフォロー	発達外来	*NICUフォロー	
		3診		田中 滋己	山本 初実(予約)	井戸 正流	
		4診	発達外来	発達外来		発達外来	
	午後	1診	田中 滋己(予約)	乳児健診			予防接種
		2診	*NICUフォロー	2週間・1ヶ月健診	発達外来	*NICUフォロー	
		3診	NICUフォロー	NICUフォロー	山本 初実(予約)	NICUフォロー	(NICUフォロー)
		4診	発達外来(学童)				発達外来(学童)
外科	1診	湯淺 浩行	谷川 寛自	横井 一	信岡 祐	谷川 寛自	
	2診	横井 一		武内 泰司郎		湯淺 浩行	
緩和ケア外来(予約・紹介のみ)							
整形外科 (予約・紹介のみ)	1診	田中 雅		田中 雅		浅沼 由美子	
	2診	長倉 剛		横山 弘和		長倉 剛	
	3診	新谷 健		新谷 健		横山 弘和	
脳神経外科	1診	霜坂 辰一	石田 藤麿	霜坂 辰一	種村 浩	石田 藤麿	
	2診		種村 浩(初診)		芝 真人	霜坂 辰一(再診予約のみ)	
脊椎・脊髄外科(予約・紹介のみ)							
*水野 正喜							
呼吸器外科							
安達 勝利							
樽川 智人							
安達 勝利							
日置 巖雄							
皮膚科(休診)							
休診							
泌尿器科	1診		加藤 雅史	*加藤 雅史(初診)	加藤 雅史	加藤 雅史(初診)	
	2診		*岩本 陽一(初診) (小児泌尿器)	岩本 陽一	*岩本 陽一(初診) (小児泌尿器)	岩本 陽一	
産科・婦人科	午前	1診(初診)	前川 有香	日下 秀人	前田 眞	吉村 公一	澤木 泰仁
		2診(婦人科再診)	前田 眞	武田 真由子	吉村 公一	武田 真由子	日下 秀人
		3診(産科再診)	中尾 真大	波多野 英美	前川 有香	中尾 真大	波多野 英美
		4診(助産師外来)	毎日、完全予約制(担当は交代制)				
	午後	1診(産科再診)	前川 有香	日下 秀人	前川 有香	吉村 公一	澤木 泰仁
2診(婦人科再診)		澤木 泰仁	武田 真由子	吉村 公一	武田 真由子	日下 秀人	
3診	*助産師外来	産後一ヶ月健診	*助産師外来	*助産師外来	*助産師外来		
眼科*(予約・紹介のみ)							
		久瀬 真奈美	久瀬 真奈美	久瀬 真奈美	久瀬 真奈美	久瀬 真奈美	
		三重大学医師		三重大学医師			
耳鼻咽喉科	午前(初診)			*伊藤 由紀子	*伊藤 由紀子		
	午前(再診予約のみ)		伊藤 由紀子			伊藤 由紀子	
	午後(再診予約のみ)	伊藤 由紀子	中耳外来		中耳外来		
放射線科(7ブロック)							
奥田 康之							
奥田 康之							
奥田 康之							
奥田 康之							
リハビリテーション科							
浅沼 由美子							
田中 雅							
浅沼 由美子							
長倉 剛							
田中 雅							
歯科・歯科口腔外科							
柳瀬 成章							
柳瀬 成章							
*柳瀬 成章							
柳瀬 成章							
*柳瀬 成章							
看護外来(予約のみ)							
		看護外来 (第1月曜日 透析予防外来)	看護外来 (第3火曜日 透析予防外来)	糖尿病外来	ストーマ外来	フットケア外来	

\*初診及び予約のない再診の方の受付時間は8:30～11:00までです。 \*医師の人事異動・出張等により臨時に代診(休診)となる場合があります。  
 \*当院のような急性期病院は、病棟入院患者様の処置、手術、検査、回診等があり、外来診療に制限を設けなければならない診療科もあることを御理解ください。

不整脈専門外来	肝炎外来	いびき・無呼吸検査	タバコ障害・COPD精査	ものわずれ外来	乳児健診	予防接種	NICUフォロー
月・火曜日 午前診療	月曜日 午前診療	月・火曜日 午前診療	月・火・水・金 午前診療	月・金曜日	火曜日 午後診療	金曜日 午後診療	月・火・水・木曜日 午前診療
循環器科(新谷)	消化器科(竹内)	呼吸器科	呼吸器科	神経内科(吉丸)	小児科		小児科(益野)
未破裂脳動脈瘤 の相談	脊椎・脊髄外科専門	肺癌・良性肺腫瘍・ 気胸・縦隔腫瘍・嚔胸	中耳外来 (予約)	ブレママ外来	おっぱい外来 (予約)	発達外来	緩和ケア外来
金曜日 午前診療 要予約(自費)	火曜日(10時～14時) (要予約・紹介)	火・木・金 午前診療	火・木曜日 午後診療	月・木曜日午後 火曜日午前診療	月・木曜日 午前診療	月・水・木曜日 診療	金曜日 午後診療(要予約)
脳神経外科(石田)	脊椎・脊髄外科(水野)	呼吸器外科	耳鼻咽喉科(伊藤)	産科・婦人科		小児科(山川)	外科(谷川)